

当園では、保育者一人ひとり、また保育園全体の質の向上を図るため自己評価を実施しました。

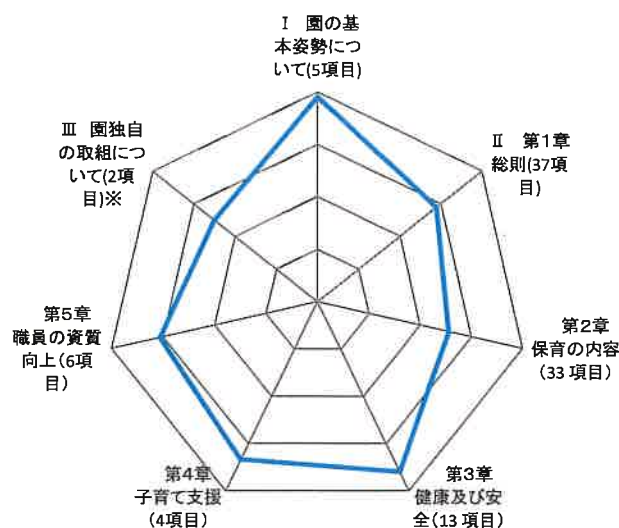
<評価方法>

十分理解できている（十分できている）…◎3点 理解している（できている）…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果

回答人数	9人			
	2022年6月実施			
評価	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢について(5項目)	28	16	1	0
II 第1章 総則(37項目)	116	116	61	15
第2章 保育の内容(33項目)	70	120	56	38
第3章 健康及び安全(13項目)	58	50	6	3
第4章 子育て支援(4項目)	16	15	2	2
第5章 職員の資質向上(6項目)	18	26	4	1
III 園独自の取組について(2項目)※	3	7	7	1

- ※1. 相手の立場にたった対応ができる。（子ども、保護者、職員など）
2. 自己評価など定期的に自分の保育を見直している。



【令和3年度 自己評価総評（気づき・振り返り・改善点等）】

- ・子どもとの信頼関係を築くことと同様に、保護者との信頼関係の深さの大切さを感じた。信頼関係を築いていけたことにより、“伝えたいことを伝えることができた”と思う。今後も研修会や書籍を参考に習得し、言葉選びや対応を考慮していきたい。
- ・担当年齢以外の保育について、それぞれの子どもたちと関わるなかで、自分が思うより理解が足りていないと感じることがあった。保育指針のねらいや内容などを再度見返しつつ、子どもたちとの関わりを工夫しながら理解を深めていきたい。
- ・日々の保育を通して、一人ひとりの心身の成長のために子どもたちの何を伸ばしたいのか、目標は何かを考えながら工夫と配慮を心掛けた。一人ひとりの力量の差や意欲の違いに難しさを感じながらも、自分のできることを増やし、満足感や達成感を得られるさまざまな経験を一年かけて提供することができたと思う。
- ・“一緒に食事をしながらメニューや食材について楽しく話すこと”が子どもたちにとって新しい味・メニューに挑戦するきっかけになり、また、食べられたことにより周囲から褒められ、嬉しさを感じることで食べる意欲に繋がることを学び、一人ひとりに合わせた環境作りに取り組んだ。
- ・日常の保育の中で、急に走り出して転倒したり、急な噛みつきや引っ掻きなどの他害行為を防げないことがあった。今後改めて、子どもたちの行動を予測することで細心の注意を払い、安心・安全な環境作りを心掛けていきたいと思う。また、一人ひとりに応じた丁寧な関わりや配慮にも努めていきたい。
- ・保育の質を高めるための情報共有や共通の理解を深めるため、職員間(担任間)の連携の大切さを感じた。